

令和5年度「山・海・島」体験活動担当者協議会【報告】

日時 令和5年12月14日（木）13:30～16:30
場所 広島県立総合体育館 小会議室
対象 各市町教育委員会の担当者、県教育委員会の担当者

○行政説明

行政説明では、小学校学習指導要領における体験活動・集団宿泊活動の位置付けや今年度の「山・海・島」体験活動評価・検証アンケート結果等を確認しました。

○講義・演習「質の高い体験活動とは」

独立行政法人国立青少年教育振興機構青少年研究センター研究員 青木 康太郎 氏

講義・演習では、青木先生に「質の高い体験活動とは」をテーマに、「体験活動が子どもの成長にもたらす効果」や「体験活動を通じた往還的な学習」、「質の高い体験活動を行うための工夫」についてお話いただきました。



体験活動が「豊かな感性」や「学ぶ意欲」等の汎用的な資質・能力を育成する機会になることや自然体験活動と各教科等の学習との往還的な学びの重要性等について教えていただきました。

その後のグループ協議では、先生の講義から学んだことをキーワードでまとめました。「感性」、「つなぐ」、「結びつき」、「学校での体験活動の確保～各教科等との往還的な学習～」等がキーワードとして挙げられ、学校教育において体験活動を行うことの意義や大切さについて交流しました。



○ふり返り

研修のふり返りでは、「令和6年度の体験活動の実施に向けて、所管の学校に何を伝えますか」をテーマに交流をしました。

参加者からは、「人工物でない自然に触れることが豊かな感性を育むことにつながることを伝えていきたい」、「目的や育成したい資質・能力が明確になっているかを、改めて意識化させていきたい」、「よりよい体験活動とすることができるよう施設と連携する重要性を伝えていきたい」、「体験活動と各教科等との往還的な学習の大切さを伝えたい」等の意見が出されました。